

スターツ プノンペンにホテル

スターツコーポレーションは2018年春までに、カンボジアの首都プノンペンで「ホテルエミオンプノンペン（仮称）」を開業する。自社施工、自社運営のホテルとしては、同社初の海外進出であり、カンボジアに日系資本のホテルが建設されるのも初めてだ。

19階建て240室

カンボジア国土管理・都市計画・建設省は13日、建築やホテル運営に関するセミナーを、同社とともにプノンペンで開催。1級建築士でもある関戸博高スターツコーポレーション取締役副会長が招かれ、建築関係者や建築を学ぶカンボジアの学生ら約500人を前に、カンボジア事業の展開や建築家としての経験



13日にプノンペンで行われた建築・ホテル運営セミナーで講演する関戸博高スターツコーポレーション副会長

18年春までに開業 自社施工で海外初

を話した。

プノンペン中心部、王宮近くに建設中の「ホテルエミオンプノンペン」は、敷地面積2380平方m、19階建て。総客室数は240室で、自社施工・運営により日本品質の設備やサービスを提供する計画だ。

同社は、日本企業のカンボジア進出が本格化する前の09年頃から事業可能性調査を始め、11年10月に現地法人を設立。駐在員の住宅やオフィス仲介を中心に事業を展開しながら、ホテル建設の準備を進めてきた。

カンボジアは土地や建築に関する制度が未整備で、人材も不足しがち。同社はカンボジア当局と長期にわたる協議や交渉を粘り強く続けて関係を築くとともに、カンボジアの建築・不動産業界全体の向上に貢献するために関係者らとの交流を重ねてきた。13日のセミナーもその一環で、同社はこのセミナーを機に、カンボジア建築家協会に建築作品集を贈呈した。また、同

社の関戸副会長と現地法人で建設を手がけるスターツCAM（カンボジア）コーポレーションの野々村嘉洋ゼネラルマネジャーの2人に、日本人としては初めて外国人建築士の資格が授与された。

セミナーであいさつしたチェア・ソパラ国土管理・都市計画・建設相は「こうした国際的な交流が、カンボジアの建築の質を高めていくことを期待している。国土管理・都市計画・建設省としても、違法建築の取り締まりなどに力を注いでいきたい」と話した。

セミナーの講演で関戸副会長は「カンボジアの1人当たり国内総生産（GDP）は、1973年頃の日本に相当する。それを考えると、カンボジアにはまだまだ成長の可能性がある」と指摘。さらに「若い皆さんには、将来のビジョンを描き、希望を持って自身のキャリアを重ねてほしい」と話した。

免震構造に関心

セミナーでは、スターツグループの日本での事業も紹介した。なかでも参加者の関心が高かったのは、免震構造建築の部分だ。カンボジアでは地震はほ

「ホテルエミオンプノンペン」の建設現場
＝カンボジア・プノンペン



んど起きないが、安全な建物、災害に対応した街づくりというコンセプトの説明に熱心に聞き入っていた。

関戸副会長は、新しい建築工程管理方法「BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）」を紹介。3次元CG（コンピューターグラフィックス）で設計から建築、建物管理まで一連の工程をシミュレーションすることで、作業の効率化を図るシステムだ。関戸副会長は「カンボジアにもこの技術を広めるため、スターツとしても必要な人材育成に協力したい」と語った。

世界銀行やアジア開発銀行など国際機関による経済成長予測によると、カンボジアは17年以

降も順調な成長を続ける見込みで、不動産・建築業は、縫製業や観光業と並んで、成長を牽引している。特にプノンペンなどの都市部では、商業ビルからコンドミニアムまで建築ラッシュともいえる状態が続いている。一方で、不動産・建築業が国外からの直接投資に頼っていることなどから、近い将来の「不動産バブル崩壊」を懸念する声も上がっている。実際、外国投資プロジェクトで建設が止まっていたり、予定通り進んでいなかったりする物件も出てきた。不動産・建築業においても、地域に根差した日本企業の事業展開が求められている。

（カンボジア月刊邦字誌「プノン」編集長 木村文、写真も）